

夜間家庭血圧による治療抵抗性高血圧患者の心血管リスク層別化

Risk stratification by nighttime home blood pressure in treatment-resistant hypertension

成田 圭佑

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門

治療抵抗性高血圧は心血管イベントのハイリスクであり、同集団におけるABPMでの血圧高値と心血管リスクとの関連は報告されているが、家庭血圧と心血管リスクについての報告は少ない。我々が知る限り、夜間家庭血圧についての報告は未だない。本研究では、夜間家庭血圧測定を用いた大規模観察研究J-HOP Nocturnal BP研究のデータを用い、これを検討した。“利尿薬を含む3剤以上での治療にも関わらず診察室血圧140/90 mmHg以上である、または4剤以上での治療”で定義される治療抵抗性高血圧患者297名（平均65歳、男性51%）を解析に用いた。平均6.5年間で41の心血管イベント（冠動脈疾患、脳卒中、心不全、大動脈解離）（21.3 / 1000人年）が観察され、夜間家庭血圧レベルは診察室および昼間（早朝および就寝前血圧の平均）家庭血圧レベルで補正しても心血管リスクと有意に関連していた（収縮期血圧10mmHg上昇ごとの調整HR 1.42 95%CI 1.10-1.84）。C統計量によるモデルの予測能について、夜間家庭血圧レベルを加えることで改善傾向を示した（ $p=0.06$ ）。一方、昼間家庭血圧では改善を示さなかった（ $p=0.87$ ）。また、夜間高血圧（120/70 mmHg以上）は患者因子と診察室血圧で補正しても有意なリスクであった（調整HR 2.74, 95%CI 1.12-6.71）。以上より、治療抵抗性高血圧において、夜間家庭血圧が心血管イベント予測に有用である可能性が示唆された。